

小鳥の森で観察してみよう 85

カシラダカ

分類：スズメ目ホオジロ科

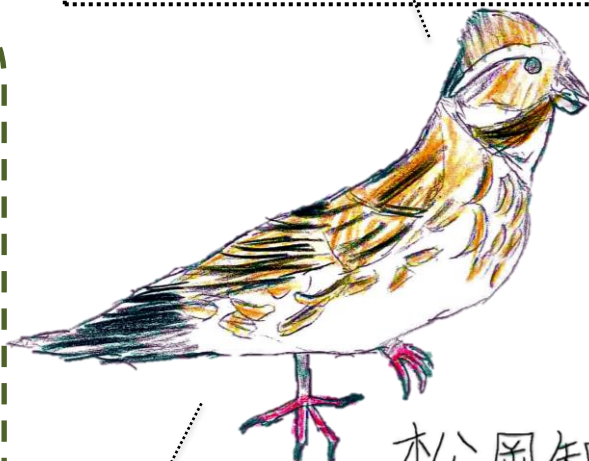
生態

- 冬鳥
- 季節 10月～3月
- 生息場所 林の近くの草地

小鳥の森での観察

- ネイチャーセンター周辺
- アワ畑

興奮（こうふん）すると頭の羽が立つ



松岡知英

大きさ：約15cm

今回の絵は、まつおか ともえさん（8さい）が描いてくれました。

1月の自然予報

小鳥の森にはタヌキやイノシシ、ウサギなど多くの野生の動物が生息しています。しかし、その多くは夜活動するため、姿を見ることはほとんどありません。

1月には雪の積もる日が増え、森の中の林床は一面真っ白になります。そうになると雪が降るまでは確認できなかった動物の足跡がよく観察できるようになります。

動物によって足跡の形や歩き方も変わるので、足跡だけで動物の種類がわかります。雪の積もった日は、普段見れないものがみつかるともかもしれません。



冬になると森の中の緑はなくなってしまい、枯れているように見えますが、木々は春への準備を着々と進めています。

木が冬を越すときには、枝先に冬芽（とうが・ふゆめ）がつくられます。この冬芽の中には翌年、葉や花になる芽がまとまってはっています。この冬芽は同じ種では大きさ以外の違いはほとんどありません。

そのため、木の名前を知る重要な手がかりにもなります。冬にしか見られない木の姿、冬芽を探しに森の中を歩いてみてはいかがでしょうか。



コナラの冬芽

12月の自然

ネイチャーセンターから見える給餌台にはシジュウカラ、ヤマガラをはじめ、シメやアトリなどの冬鳥も集まるようになりました。

また、アワ畑ではカシラダカの群れに混ざっているミヤマホオジロの姿も見ることができました。ホオジロの仲間は落ち葉や枯れた草の上で草木の種や虫を食べていますが、体の色が周りの色と似ているので、森を歩いていても気が付かず、飛び立ってようやく気が付くことがほとんどでした。

雪の積もった日もあり、寒さが身にしみましたが、野鳥たちが元気に食事している姿をたくさん見ることができた12月でした。



シメ

アトリ

ミヤマホオジロ

小鳥の森スタッフだより

正月の赤い実

冬に赤い実をつけることから縁起の良い植物とされ、お正月飾りにも使われている千両。他には万両、百両、十両、一両があります。百両の別名をカラタチバナ、十両は小鳥の森にもあるヤブコウジ、一両はアリドオシです。万両は千両よりたくさん実がつくため、そう言われています。

お正月には「千両、万両、一両」を飾ると金運に恵まれると言われていています。意味は「千両、万両、有り通し（一両）」、お金がいつもあるという意味になるそうです。お正月飾りの赤い実にはいろいろな願いが込められています。

(レンジャー ながと まゆみ)



「野鳥写真家叶内拓哉さんと歩くバードウォッチング」を開催しました

12月15日に野鳥写真家の叶内拓哉さんと歩くバードウォッチングを開催しました。

当日は始まってすぐに雪が降りだし、寒い中の探鳥会になりましたが、アトリやベニマシコ、キンクロハジロなどの多くの冬鳥を叶内さんの解説付きで見ることができ、参加者の方たちも双眼鏡やスコープでの観察に夢中な様子でした。

「森のたからもの探し」をはじめました

毎月、出されたお題を達成すると、オリジナル缶バッジをプレゼントする「森のたからもの探し」をはじめました。

お題と缶バッジのデザインは毎月変わります。1月のお題は「冬芽」の写真、缶バッジは「イノシシ」です。皆さんの参加をお待ちしております。

※福島市小鳥の森では色々なイベントを開催しています。
詳しくはネイチャーセンターまでお気軽にお問い合わせ下さい。

*小鳥の森ホームページで小鳥の森スタッフが独自に測定した環境放射線量を公開しています。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel: 024-531-8411 fax: 024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2019年1月号No.396 / 企画・発行：福島市小鳥の森 / 日本野鳥の会ふくしま